2026 年 6 月 23 日

学校法人三幸学園
東京こども専門学校
校長　庄司　一也　殿

学校関係者評価委員会
委員長　手塚　智美

# 学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
①　手塚　智美（学校法人三幸学園　チャイルドケア事業本部）
②　安藤　功一（小田原短期大学）
③　茂木　優花（2022 年度卒業生）

2　学校関係者評価委員会の開催状況
2026 年 6 月 2 日（会場　東京こども専門学校　3 階多目的教室）

3　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2025年度 学校法人 三幸学園 東京こども専門学校
# 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長 津脇 俊
学校関係者評価報告責任者 ： 学校関係者評価委員会委員長 手塚 智美

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【教務】

・退学率の低減 目標 8.5%以内に対し 6.4%

退学率の低減と同時に出席率の向上を目標に掲げていたが、出席率についても目標 85%以上に対し、86.1%という結果になった。担任会議及び学年会での学生情報共有を密に行い、必要に応じて役職者を面談に同席するなどの対応を行った。

【就職】

・就職率 目標 100%に対し 100%

就職率は早期に目標達成となった。学内での就職説明会や、クラス担任とエリア担当との連携を行ったことが結果に結びついたと言える。

② 学校関係者評価委員会コメント

・退学率 6.4%はこども分野としては非常に優秀である。情報共有・面談体制が機能しているのではないかと感じた。今後の課題として復学後の支援強化やメンタル面でのフォローが重要である。（手塚委員）

## 3.評価項目の達成及び取組状況

### (1)教育理念・目標

| 【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1） | 評価 |
|---|---|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） | 4 |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか | 4 |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 |

① 課題

・日々変化する業界ニーズに合わせた、ICT 化を含めた学校教育への反映。

・現場に即した力が身につく、将来像を見据えた授業の展開。

② 今後の改善方策

・授業においてタブレットや ICT を活用し、学びを深める施策を実施。

・保育現場でのICT活用を結びつけた授業の実施。

③ 特記事項

・教職員には、教育理念・ビジョン・ミッション・人材育成方針を体系化し、年 3 回の全体会議内における研修やポスター掲示等により周知している。

・生徒への理念の浸透に向けて、入学直後のスタートアッププログラム研修や、教室内ポスター掲示、HR等で継続的な周知を行っている。

・授業内で業界の方々の講話を複数回実施することで業界の魅力付けを行い、業界ニーズに合わせた技術・人材育成指導に反映している。

・オープンキャンパス内での保護者説明会や入学予定者の保護者向けに学校カリキュラム等説明を実施している。

・文京区内保育園との連携による模擬授業の実施。

→各コースの授業のみならず他学科・他学年においても保育園連携授業を実施。

・年度始めに個人目標/クラス目標を設定し、ホームルームで振り返りの機会を設けている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・現場では保護者会資料の作成や係分担表の作成、動画作成などを行う機会が多く、Excel や資料作成スキルの重要性が高まっていると感じる。そのため、授業内でこれらのスキルをより強化する必要がある。（茂木委員）

・短期大学においても実習日誌の ICT 化を進めているが、実習先の園によって ICT 導入状況に差があるため、完全な ICT 化には一定の時間を要すると認識している。（安藤委員）

・近年、保育現場及び学生ともに AI を活用する機会が増加していることから、AI を適切に活用するためのリテラシー教育が必要である。単なる使用制限をするのではなく、正しい活用方法を教える教育への転換が求められる。（手塚委員）

## (2)学校運営

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか | 4 |
| 教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 |

① 課題

･学校運営にあたり、多岐にわたる業務の効率化。

･学校事務の効率化･情報管理体制の確立。

② 今後の改善方策

･タイムリーかつ効率的な業務遂行可能とする体制の構築。

③ 特記事項

･学校運営は、学園組織図、学則、校務分掌表に示している。学則は必要に応じて学則変更を行い、校務分掌表は年度ごとに内容や構成員を見直している。

･採用は、関係法令により教員資格が定められている分野は、規定通りの人材を確保。他の分野においては必要要件を満たした人材を確保。

･情報管理においては管理体制を強化している(Office365 の活用及び事務職員により徹底管理)。

･出席管理等の WEB システムを導入し、成績管理における効率化を図る。

④ 学校関係者評価委員会コメント

･保育園の労務管理と比べると専門学校の管理は緩いと感じる。既に実施しているとは思うが残業管理や業務の属人化など見直すべきである。(手塚委員)

## (3)教育活動

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか | 4 |
| 目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか | 4 |
| 関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか | 4 |
| 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか | 4 |
| 授業評価の実施･評価体制はあるか | 4 |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| 成績評価･単位認定の基準は明確になっているか | 4 |
| 資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか | 4 |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |
| 関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3 |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 |

① 課題

･授業アンケートの結果数値向上。

･キャリア教育の充実、職業を見据えた講師全体の授業力向上（教育の質の均一化を図る）。

･実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）における各教科との連携。

② 今後の改善方策

･授業アンケートを活用し、個々の課題を明確に把握するとともに、教員全体のスキルアップを図る。

･実技科目（ピアノ･実習指導等）において、複数教員による授業運営を継続し、必要に応じてティーチングアシスタントを活用する。

･行事活動を通じて、臨機応変さや現場に適した思考力を養う教育活動を提供する。

③ 特記事項

年 3～4 回の教員研修、授業見学月間の設置等、授業や指導力向上に取り組んでいる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・学生と教員の距離の近さは強みである一方で課題でもある。一部の学生において、敬語の使い方や社会性が弱いと感じる。社会に出た時に過度なギャップを感じることがないように、成功体験だけでなく失敗経験も積ませる必要がある。（茂木委員）
・社会に出た時のギャップが大きいと離職に繋がる可能性が大きい、今年度の「自立」というテーマはシンプルでありながら妥当である。（手塚委員）

## (4)学修成果

| 【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1） | 評価 |
|---|---|
| 就職率の向上が図られているか | 4 |
| 資格（免許）取得率の向上が図られているか | 3 |
| 退学率の低減が図られているか | 3 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

①　課題
・退学に至るまでの状況把握及び、適切な対応を行うため保護者や他の教員を迅速に巻き込むなど担任としての指導力・対応力の向上を図る。
・卒業生の就労状況（活躍状況や就労継続状況）の把握。
・在学中におけるキャリア形成の指導及び社会人基礎力を備えた人材の育成。
・資格取得に向けた授業力・担任力の向上を図り、実践力・社会人基礎力の育成を推進する。

②　今後の改善方策
・退学事例報告会の定期的な実施や学生情報の迅速な共有。
・スクールカウンセラーによる教員勉強会及び担任を中心とした教科担当教員間の連携と声がけ。
・個別の学習フォローが必要な生徒に対する支援体制を構築。
・教職員の情報共有システムを導入し、タイムリーに情報共有を行うことで生徒支援体制を構築。

③　特記事項
・エリア担当教員を配置し、担任 2 名体制で就職をサポートしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント
・中途採用の市場に変化が見られ、就職後に長く働き続けるための動機付けが非常に重要であると感じている。社会人になった際に、自分のことを自分で管理できるようなスタンスを育ててもらいたいと感じる。（手塚委員）
・自分で課題を受け止める力、解決していく力を育てるトレーニングが有効ではないか。（茂木委員）

## (5)学生支援

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 進路･就職に関する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 |
| 保護者と適切に連携しているか | 4 |
| 卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| 中途退学者への支援体制はあるか | 3 |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 |
| 高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか | 4 |

① 課題

･卒業後の卒業生支援体制、同窓会組織の強化。

･キャリア教育、職業教育の取り組みの強化。

② 今後の改善方策

･就職ガイダンスにて保育現場の教員によるキャリア案内（定期的な就職ガイダンスを実施）。

･卒業生支援として年 2 回、新卒対象のアンケートを実施予定。

･全国共通の就職指導ガイドにて、分野として支援を強化。

･ボランティアサークル「KODOMONS」の活動強化。

･創立 20 周年の同窓会実施。

･卒業生向けに定期的な LINE 配信を行い、次年度の同窓会に向けて繋がりを強化。

③ 特記事項

･専属のスクールカウンセラーを設置（3 名体制）。

･卒業生へのフォローを目的として、ホームページ「Sanko Link」の浸透及び活性化を図る。

･ボランティアサークルを通じ、学生が実践力を向上できる場を提供。

･ボランティア活動斡旋のため文京区社会福祉協議会と連携

④ 学校関係者評価委員会コメント

･卒業後 1～2 年目の支援が重要と感じる。サポート体制があることを打ち出すことで安心感につながる。卒業生講話は在校生の卒業後の理想と現実のギャップを埋めるいい機会となるので検討してほしい。（手塚委員）

## (6)教育環境

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 施設･設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 |
| 防災･安全管理に対する体制は整備されているか | 4 |

① 課題

･学外インターンシップ等の受入施設をはじめとする連携施設の拡充を図る。

② 今後の改善方策

･実習やインターンシップ等の事前事後フォローアップの強化。

③ 特記事項

･全教室にプロジェクターとスクリーン、スピーカーを配置することにより、積極的に OA 機器を利用した授業が出来る環境を作っている。

･学外実習は、各学科のカリキュラムに位置づけて実施しており、実習担当と実習教科担当により毎年基本方針と年間計画が見直されている。

･実習中は、エリア担当教員が定期的に実習先を訪問し、学生の状況を把握すると共に担任とのコミュニケーションを図り、連携して学生指導を行っている。

･非常時の動きの確認等、HR 等を通して担任から伝達･指導･訓練の実施をしている。また避難経路については教室、情報共有システムにて避難経路を常時掲載している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

･特になし

## (7)学生の受入れ募集

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 |
| 入学選考は、適性に行われているか | 4 |
| 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

① 課題

・教務（教育成果）と広報（募集活動）の連携を意識した募集活動。

・広報（募集活動）時からの保育業界への意識付け・教育体系の浸透。

② 今後の改善方策

・教育成果を伝えられる魅力的な広報活動を適正に行う。

③ 特記事項

・地域に設置されている広報室との連携を強化し、ニーズに合った情報の提供ができるように取り組んでいる。

・中学生の学校見学や、高校 1・2 年生向けの広報活動において、職業理解を深め、保育者を目指してもらえることを意識している。

・広報活動では同法人内の園見学を実施し、実際の職業の魅力を伝えている。

・学納金及び奨学金制度、学費減免制度については、社会情勢を踏まえて毎年検討を重ねている。

・内部進学者制度を活用し、同法人内高等学校との連携も強化している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・SNS での募集活動は、学生の雰囲気や学校の活気（いわゆる「わいわい感」）がよく伝わっており、親しみやすさや魅力の発信として一定の効果があると感じる。一方で、専門学校として重視される就職率や進路実績など、いわゆる「出口」に関する情報が少なく、進学検討者にとっては判断材料としてやや不足している印象を受ける。

　また、現在の情報発信は学校生活の楽しい雰囲気に偏りがちであり、情報の緩急に偏りがあると感じられる。今後は、学生生活の魅力を伝えるコンテンツとあわせて、進路実績や資格取得状況などの客観的情報も適切に織り交ぜることで、信頼性と訴求力のバランスが取れたより効果的な発信になるのではないか。（手塚委員）

・

## (8)財務

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

･特になし

## (9)法令等の遵守

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 4 |
| 自己評価結果を公開しているか | 4 |

① 課題

・法令遵守に対する意識のさらなる向上と徹底。

② 今後の改善方策

・会議や掲示等を通じて、全職員に対し、法令遵守意識の啓発を継続的に図れるように働きかける。

③ 特記事項

・在校生に対しては、初回の HR において「学生便覧」を配布し、学修に関する諸手続、学生生活、喫煙等について周知している。また、HR や授業にて、ネット利用の注意点を継続的に伝えている。

・自己点検・自己評価の材料である「授業アンケート」は、学校平均と共に全教員へ結果をフィードバックしている。学校平均、三幸学園全体の平均に関しても全教員へ公表し振り返りを行っている。

・「卒業生アンケート」に関しても、三幸学園全体の平均と本校の結果を、年度初めの全体会議で公表している。教員全体で振り返りを行うことで、次年度へ活かす材料としている。

・年 3 回の教職員会議にて、個人情報や法令順守に関する勉強会を行い、認識統一の場を設けている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

## (10)社会貢献・地域貢献

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|---|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 4 |

① 課題

・積極的な地域向けの公開講座、地学、教育連携の向上。

・ボランティア活動実施のための地域・園・施設との関係構築、受け入れ先の拡大。

② 今後の改善方策

・ボランティア活動の積極的な斡旋を行うための、関係構築を強化。

・子育て支援の継続実施およびニーズに合わせた事業内容の展開。（地域開放・文京区への貢献）

③ 特記事項

・職業訓練の受け入れ（2022 年度 10 名/2023 年度 15 名/2024 年度 2 名/2025 年度 1 名）を実施している。

・SDGsを意識した授業展開や生徒への意識づけを行っている。

・子育て支援活動の「ひだまりルーム」を週 1 回程開催している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・授業と地域活動の統合がより増えると魅力的だと感じる。（手塚委員）

### （11）国際交流（必要に応じて）

| 【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1） | 評価 |
|---|---|
| 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか | 3 |
| 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | 4 |
| 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 3 |
| 学内で適切な体制が整備されているか | 4 |

① 課題

・留学生の受け入れに関して、戦略的に取り組み、受け入れ態勢を学内で整える。

② 今後の改善方策

・実習実施のためのサポート態勢の確立。

・卒業後を見据えた入学前の説明を実施するとともに、留学生の受け入れに対して明確な案内を行う。

③ 特記事項

・2026 年度の留学生入学者は 2 名である。

・留学生担当をおき、相談しやすい環境を設定。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・保育資格では就労ビザ取得が容易ではないが、多文化保育への対応力の育成や外国人家庭増加への適応を見据えた取組を検討する必要がある。（手塚委員）

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度の委員会では学生募集、資格取得率、卒業生支援が主な課題として上がった。学生募集については 18 歳人口が減少していく中、学校の魅力を発信することはもちろん、保育という仕事の魅力を示し保育業界全体へ良い影響を与えていく必要がある。

資格取得率の向上については、今年度から新しく設定したディプロマポリシーを学生へ浸透させ、体系的な学びの流れを構築するとともに、フォロー体制を整えることで、学習途中で諦める学生を減少させたい。ICT を活用した授業や実習を積極的に実施することで、学生にとって学びやすい環境の整備を進めることも必要である。

卒業生支援については、同窓会活動の活性化や再就職支援の充実を通じて、卒業生との接点を増やしていきたいと考えている。